

# ぴったんこのだいぼうけん

さく・もり あいな



作者の森愛菜は、3歳の時に自閉症の診断を受けています。

この物語は、

家族や友人と上手くコミュニケーションが取れず、

表情も乏しかった、小学2年生の時に、描いた物語です。

独特な感性を持ち、見るたびに面白い発見があるイラスト。

親子で一緒にお楽しみ下さい。



あるところに ぴったんこという なまえの むしが いました。

ぴったんこは たんけんが だいすきで

きょうは のはらに でかけました。

「だれか ともだちに なってくれないかなあ」と

おもいながら あるいていました。



sample

ごめん

くらい トンネルを ぬけると  
さきには おおきな いけが ありました。



そのいけで にんぎょが

たくさん たのしそうに あそんで いました。

ぴったんこは にじいろみたいな にんぎょの ことが

すきに なりました。



ためしよみ

は

ここまでです